

## 試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名： 赤花系イチゴ新品種「桜香」・「紅香」の育成			
<p>[要約] 鉢物生産の振興を図るため、12月～4月出荷に適し、果実が大きく、高糖度で、果実品質の優れる赤花系イチゴ品種の育種を行い、観賞用赤花イチゴ新品種「桜香」、「紅香」を育成した。「桜香」、「紅香」は千葉ブランド品種として鉢物生産、ガーデニング用、イチゴ狩りなどに適している。</p>			
キーワード	イチゴ、赤花、鉢物、高糖度、桜香、紅香		
実施機関名	主 査	農業総合研究センター 育種研究所	野菜花き育種研究室
協力機関	農業総合研究センター 生産技術部 花き緑化研究室		
実施期間	2001年度～2006年度		

### [目的及び背景]

近年、観賞用のイチゴとして赤花系イチゴが量販店等で販売されている。しかし、これまでの赤花系イチゴは、果実が小さく、糖度が低いなど、果実品質が極めて劣っているため、鉢物としての流通はほとんどなく、主にガーデニング用苗として販売されている。県内でイチゴを鉢物として販売している生産者からは、多様な消費者ニーズに対応するために、赤花系イチゴでも、白花系イチゴ並においしくて、甘く、果実が大きい品種の育成が望まれていたことから、果実品質が優れ、観賞価値の高い、赤花系イチゴの新品種育成に取り組んだ。

### [成果内容]

#### 1 育成経過

2001年に、「ふさの香」を子房親に、赤花選抜系統「6SR124」を花粉親として交配し、2002年に得られた後代から果実品質が優れ桃色の花卉をもった1系統「02-36」（後の桜香）を有望系統とし選抜した。さらに、2005年に「02-36」の自殖後代から、花卉が濃い紫赤を示す有望系統「05-3」（後の紅香）を同様に選抜した。この2系統について2005～2006年に地域適応性検定試験を行い、従来の赤花系品種に比べ果実が大きく、糖度が高いなど生産者の評価が高いことから、育種目標にかなう優良系統であると認め、新品種候補とし育成を完了した。2006年9月1日に「桜香」、「紅香」と命名し、種苗法に基づく品種登録出願申請を行った。

#### 2 主な特性

##### (1) 「桜香」

ア 花色は鮮紫ピンクで頂花房一番花の大きさは5cm程度、他の品種より大きい。花卉数は一番花で7～8枚と多く、他の花は5～6枚程度になる。頂花房の開花数は15.6花で花数は多い。花は甘いバラの花に似た香りがある(表1)。

イ 草勢は旺盛で、15cmポットで栽培した場合、葉柄長は18.5cmと長く、果柄も同様に28.

3 cmと長い。そのため、栽培に当たっては腰高の鉢が必要となる。果実は円錐形の大果で、平均果重で15.6gと大果である。果皮色は赤色で、着色はよい。果肉色は白色で糖度は高く、特有の風味を持ち食味はよい(表2)。

ウ うどんこ病には中程度に強く、萎黄病には抵抗性を示す(表3)。

## (2) 「紅香」

ア 花色は赤紫で頂花房一番花の大きさは4.8cm程度で「桜香」よりやや小さい。花弁数は一番花で7～8枚と多く他の花は5～6枚程度になる。頂花房の開花数は9.2花で花数はやや少ない(表1、写真1)。

イ 草勢は中程度で、15cmポットで栽培した場合、葉柄長が10.5cm、果柄長が12.8cmとコンパクトな草姿となる。果実はやや縦長の円錐形で、平均果重12.3gの中玉品種である。果皮の着色がやや悪いため果皮色は淡紅色で、果肉は白色になる。糖度は高く食味はよい(表2)。

ウ 特定の病害に対し抵抗性はない(表3)。

以上のようにこれら2品種は、従来の赤花系品種に比べ、果実品質が優れ花も実も楽しめる、鉢物栽培用品種としての利用が期待される。

### [留意事項]

- 1 うどんこ病が発生するので、防除を徹底する。
- 2 開花期には交配用にミツバチ等を導入する。
- 3 イチゴの赤色はアントシアニン系色素の発色によるため、日射が不足すると花色が淡くなることがあるので、冬の低温弱光期はできるだけ日当たりを良くすることに心がける。また、紫外線除去フィルムを用いると同様に着色不良になる。
- 4 果実は柔らかく、傷みやすいので、色づく前に出荷する。

### [普及対象地域]

県下全域の鉢花生産者、イチゴ苗生産者、観光イチゴ生産者

### [行政上の措置]

2006年9月に種苗法に基づく品種登録出願を行った。

### [普及状況]

県の許諾要領を定め、本品種の利用を希望する者と許諾契約を締結し、普及を図っていく。

[成果の概要]

表1 開花特性

系統名	花の大きさ (cm)	花弁数 (枚)	花色	JHSカラー チャート	頂花房 開花数	香り
桜香	4.2	5~8	鮮紫ピンク	9703	15.6	多
紅香	3.8	5~8	紫赤	9707	9.2	中
桃春妃	3.8	5~8	鮮紫ピンク	9705	10.5	無
紅春妃	3.6	5~8	濃紅	1081	8.9	無
ふさの香	3.9	5~8	黄白	2901	13.8	無

注：花の大きさ、花弁数は頂花房の平均とした。

表2 生育、果実特性

系統名	草勢	葉柄長 (cm)	花柄の 長さ(cm)	果形	平均果重 (g)	果皮色	果肉色	糖度 Brix
桜香	強	18.5	28.3	円錐	15.6	赤色	白色	12.7
紅香	中	10.5	12.3	円錐	12.3	明赤色	白色	12.4
桃春妃	中	11.2	9.2	円錐	10.5	明赤色	橙赤色	8.5
紅春妃	弱	8.9	6.9	円錐	9.8	鮮赤色	白色	7.6
ふさの香	強	16.2	13.8	円錐	14.3	鮮紅色	橙赤色	11.9

注：15cmポットでの栽培結果。

葉柄長、花柄長は3月20日調査

平均果重、糖度は1月~3月の平均とした。

表3 病害抵抗性

系統名	病害抵抗性		
	うどんこ病	炭疽病	萎黄病
桜香	中	中	強
紅香	弱	弱	弱
桃春妃	弱	弱	弱
紅春妃	弱	弱	弱
ふさの香	強	強	弱

注：うどんこ病は圃場での発生状況で検定した。

炭疽病は病原菌懸濁液の接種で検定した。

萎黄病は汚染土に植え付け検定した。



写真1 「桜香」



写真2 「紅香」

[発表及び関連文献]

平成18年度試験研究成果発表会資料（花植木部門I）

[その他]